

---

**T a N N o**

寄添燐火

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

T a N N o

### 【Nコード】

N 7 5 6 7 I

### 【作者名】

寄添燐火

### 【あらすじ】

小説初心者です。

友達の話聞いていたらこの物語が舞い降りてきました。

誤字脱字、表現など荒削りな所が多いと思いますが、よろしくお願

いじめる | 、 |

## オープニング

ぞあっ…

ぞあっ…

まだ太陽が昇る前の時間、規則的に響くこの音

「ふう…こんなロボットにやらせれば簡単なのにおう」

箸を動かす手を止め一息をつきながらの小さな愚痴

その愚痴は清涼な朝の空気に吸い込まれていく

その愚痴をぼーっと聞いているとこちらに気づいたのか初老の男が話かけてきた

「そこにいる青年、早起きで何より。ん？不思議そうな顔をしておるのう、どうしたんだ？」

男の話に興味があった僕は、さっきの話を詳しく聞かせるとせがむ

今は3000年、ロボットはロストテクノロジーと呼ばれ、伝説上の話として聴かされているためだ。

「ほう、何故ロボットと言う技術が失われてしまったのか知りたいのか、良からう話してやろうぞ。」

そういいながら男は近くにあったベンチによく聞く掛け声と共に腰をかける

つられて、僕もその隣に座った

すると男が語り始めた

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7567i/>

---

T a N N o

2010年10月30日20時36分発行